

発がん抑制分子「有効」

がんが発症するのを未然に防ぐ仕組みを、渋谷彰筑波大教授らの研究チームが解明し、17日発表しました。がんにかかりにくい体質にする薬の開発につながるといいます。22日付の米科学誌に掲載する。健康な人でも毎日約3

道に新薬に予防

筑波大、マウスで実証

000個のがん細胞が発生しているが、がんにならないのは免疫の効果と

の学説がある。研究チームは、「キラーT細胞」などの免疫細胞の表面にできる分子「DNAMI」が、がん細胞上の別の分子と結合する性質に注

目。DNAMIのないマウスを作り、線維肉腫などを起こす発がん物質を接種した。DNAMIなしのマウス十数匹は約5カ月後にすべて線維肉腫を発症したが、同じように発がん物質を接種した通常マウスで約5カ月後

に発症していたのは、ほぼ半分だった。

DNAMIががん細胞を殺す上で重要な役割を担うことは実験で推測されていたが、生物でその作用があるのかは不明だった。渋谷教授は「DNAMIの働きを高めることで、がん治療だけでなく、予防にもつながるので」と話す。【石塚孝志】